

信仰生活のターニングポイント（ルカ 14:25-35）

人々は自分が抱えている問題を解決するためにもがいています。また、幸せを手に入れようとして工夫しながら頑張っています。そして、そうなるために宗教を求めたり、偶像を拝んだり、占いなどに走ったりします。しかし、結局は疲れて重荷を背負い倒れてしまいます。なぜでしょうか。努力が悪いわけではありません。宗教が悪いというわけではありませんが、人間の本当の問題、人間の根本、その靈的状態が何か分かっていたら、そういうふうにはならなかっただろう。つまり、問題の解決のためにもがいていることが、普通は当たり前に思われるでしょうけれども、人間の根本、本当の問題を知らないからもがいているわけです。幸せを手に入れようと工夫して頑張ること、みな褒めるかもしれません。しかし、それは裏返しますと、今幸せでないから、幸せを手に入れようとして頑張っているのでしょう。それは人間の根本を見たことがないからです。宗教を求めたり、偶像を拝んだり、占いに走ったり、シャーマニズムに頼ったり、必死だと思います。それが悪いというわけではありませんが、しかし、そういう行為は、そのように必死になって求めていることは、人の根本を見たことがないからです。そのことを礼拝を捧げているクリスチャンの私たちは、まず改めて思い起こし、肝に銘じながら、神様のメッセージを聞かないといけないと思います。もし、人が自分、また人間の本当の問題、根本が何かを見た、分かったとすればどうなるでしょうか。どのように変わるのでしょうか。聖書だけが私たちに教えている人の本当の問題、人の根本を聖書はこのように私たちに語っています。人は自分の罪と罪過の中にあって死んでいたものであって、人間は自分がたましい、靈を持っていることさえ気づいていません。なぜかというと、その靈が死んでしまったからです。人の根本、人の本当の問題は、人、またその人の人生すべてを左右する、その人の内側にある靈が死んでしまったことなのです。靈が死んだというのは、創造主の神様と一緒にいるべき人間が、その罪によって神様が離れてしまい、その代わりに悪魔サタン、目に見えない人を滅ぼす悪魔サタンが入り込んで、その時からは自動的に、本能的に神様の反対の方向に、つまり、悪魔サタンに従うことしか考えることができない精神状態をもって生まれます。自分なりには家族思いで社会に貢献したい、善良な市民として生きていこうじゃないかと。悪くはないけれども、結果的に、それで何が言いたいのかというと、神様はいらないよ、神様を信じる必要などはありませんという結論の方に行くだけなのです。精神の状態が悪魔サタンに従うしかないのです。性格の良い人間でも、悪ふざけな犯罪者でも、基本的に同じです。目に見えない悪魔サタンの支配力というのはものすごいものなのです。私たちはそういうことを知らないので、自分のレベルで良いことがあれば良いこと、悪いことがあれば悪いと判断する。そういうことに慣れているのではないかでしょうか。それが世の中では普通なのです。しかし、人の靈的根本が何か分かれば、人は根本的に精神、考え方の状態が神様の反対の方向に向くしかないのです。なぜでしょうか。

靈が死んで悪魔サタンが支配しているので、それに1ミリも抵抗できないのです。それを抱えて成長していく過程で、何かのことがきっかけになって表に症状としていろいろ現れているだけなのです。それが鬱になる場合も、引きこもりになる場合、暴力に走る場合、何かの依存症に走る場合等々いろいろありますが、実はそのいちばん裏の根本の方には、そうならざるを得ない精神を持って生まれるわけです。空中の権威を持って支配しているものが作り出した世の流れに従うしかありません。抵抗できません。残念なのは、クリスチヤンで礼拝を捧げている私たちでさえ、それを素直に受け入れることができないのです。まさか自分もそういう人間なのか。そうです。そこがスタートなのです。クリスチヤンの私たちにとってそこが変わらないので、日本の国が宣教師の墓とかされているわけです。日本の国が悪いからではありません。これが私たち人間の根本なのです。なので、生まれながら神の御怒りを受けるしかない子らとして生まれて、つまり滅びる運命を抱えて生まれるのです。生きていく中で何か条件が悪いから、社会がめちゃくちゃなので、それで私はこの

ように滅びの人間になったと言いたいのでしょうか、ファクトはファクトでしょう。しかし、靈的な裏ということが分かっていない人の発言なのです。元々そうなるしかない運命を抱え、抵抗できない運命の中を生きているわけです。それが人間の本当の問題、根本なのです。分かりやすい言葉で申し上げますと、産声をあげながら赤ちゃんが生まれたその瞬間から、実は母の体内にいるその時から、基本的に不安を抱えて生まれるわけです。消えない、消せない不安を抱えてみな生まれるのです。赤ちゃんだから、子どもだから、人間だから、仕がないのではないか、当たり前ではないかと思うことが、実は当たり前ではありません。最初の人間には、神様がともにおられたときにはなかったものなのです。そのときは悲しみも苦しみもありませんでした。赤ちゃんが生まれてわーんと泣くのは生きている証拠であり、当たり前だと思うでしょう。けれども、よくよく考えないといけません。不安なのです。不安。お母さんが目の前で見えない、見えなくなっただけで、赤ちゃんは不安でしょうがないのです。なぜでしょうか。本当に靈が生きているものであれば、そのようになります。赤ちゃんだからではありません。これが人間の本当の問題、根本なのです。どうしようもないのです。誰も分かっていません。このような靈が死んだという人の根本のことがわかったときに、今まで当たり前にもがいていたことがいかに無駄なことで愚かなことだったのかに気づくようになります。

1. 人間とこの世の限界を認める。

それで第1、人の根本が何か分かったときには、人間とこの世の限界を認めることになります。みな世の中を生きるために賞賛される言葉があります。

1) 最善、良い行い、悩み、努力

最善を尽くす。良いことです。怠けてもいいわけではありません。しかし、最善を尽くすこと

とでこの人の人生が根本から変えられると思うことは言語道断なのです。いくら最善が求められ、自分が最善を尽くしたとしても、その最善では人の根本には全く通じません。良い行いに励もうと頑張ることもあります。悪いことではありません。しかし、いくら良い行いに励んで頑張ったとしても、それが人の根本を変えることは全く無縁で関係ありません。何かのことで人間なので心配をして悩み、また深く考えることもあるかもしれません。しかし、いくら悩んでも、その悩んでいることがその人の根本の状態を変える力にはなりません。まとめて申し上げますと、人がいくら頑張って真面目に努力しても、人の根本が何か分かっていれば、それには1ミリも届かないということに気づくはずなのです。それがいらないということではありませんが、限界を認めないといけません。そこに絶対的な希望などは1ミリもありません。別の意味で必要なものなのです。

2) 必要なこと

そういう意味で、私たちが生きていくために、この社会を維持するために必要なものがあることは間違ひありません。教育、必要なものです。政治なども必要なものです。芸術、芸能なども人が生きるために必要なものなのです。福祉制度をはじめ、さまざまなこの社会を維持して持っていくために必要な制度などもいろいろあります。生きていくためにはお金も必要でしょう、仕事も必要でしょう。必要なものはたくさんあります。それを否定するつもりはありませんが、しかし、いくらそれが必要なものだからといって、人の根本が何か分かっていれば、人の人生を根本から変えることはできないし、人生の本当の問題には及ばないということに気付くはずなんですね。それが限界を認めるということなのです。なぜ子供たちが一生懸命勉強すると喜んで勉強ができないと悲しむのでしょうか。私たちのレベルはそういうレベルなんで、すくさんなのに勉強しなくてもいいというふざけた話ではありませんけども、なぜそれがそのような喜びと悲しみの絶対的な基準になって、それに右往左往され、それに振り回され、影響を受けてるのでしょうか。人の本当の問題がくりちゃんなのにまだ分かっていないからではないでしょうか。なぜ親のせいにしたり、家庭のせいにしたり、子どもたちが家庭のさまざまな環境によって振り回され、心の傷を負って、変な性格になって脳が狂ってしまうのでしょうか。本当の問題が何か分かっていないから、そういうしたものに影響を受けるしかありません。親がいくら優しい人間でも、それは限界あるものなのです。それによって私たちが左右されるような、そういう要素ではないのに、本当の問題が分かっていないとそうならざるを得ません。

3) 大事なもの

人生を生きていくために大事なものもいっぱいあります。特に、人と人が一緒に歩いていくものが人生なので、人間関係というものは非常に大事なものなのです。その人間関係のためには、礼儀とマナーというものは大事なものです。先ほど申し上げましたように、子どもを育てるために、また人と接するために、愛情、人の愛情というものは非常に大事なものでは

ないでしょうか。そして、大事なものの中でいちばん大事なものといえば、生命です。このいのち、生命が奪われると、愛情であれ何であれ、全部一緒にパーになるわけだから、大事なものに間違いないでしょう。しかし、その自分の命、この生命でさえ、人の根本、人の本当の問題が分かれば、何の役にも立たないということに気づき、その限界を認めざるを得ません。いま私が申し上げますこの内容にアーメンにならない人は、今日の聖書の箇所は全く理解できないでしょう。だから、信仰生活になりません。礼拝を捧げて信仰生活をするつもりなのに、宗教になります。そのターニングポイントを迎えないといけません。

4) 大事な人たち

また、生きていくために大事な人もいます。家族はなんと大事な存在でしょうか。お世話になった人、恩人、大事にしないといけないでしょう。また、職場の同僚、いろいろな場面でも仲間は大事です。恋人、大事じゃないでしょうか。その他にも大事な人がたくさんいらっしゃると思います。大事にしないといけません。しかし、その大事な人、家族でさえ、恩人、恋人でさえ、人の本当の問題、根本が分かれば、それには何の力にもならないということに気づくはずです。限界なのです。言葉を変えますと、家族や恋人や恩人などによって自分の人生が左右されるようなことがあってはいけないのです。なのに、私たちはそのように今まで生きてきました。それが正しいと思って生きてきたわけです。なぜなのでしょうか。人の本当の問題、誰も教えてくれない、人の根本について聞いたことがない、聞いても響かないのです。そうすると、信仰生活はスタートしません。あらゆる刻印はそのまま。何より、過去に負っていた心の傷が治らないのです。優しい言葉によって治るわけではありません。本当の事実に目覚めない限りは、心の傷などは癒されないのです。

5) イスラエルにある良い祝福

今日、イエス様は、イエス様に従っていく大勢の群衆、その群衆はイスラエルの人です。その群衆に向かって、その裏にいたパリサイ人に向かって、イエス様がおっしゃったことなのです。そのイスラエルには、他の国、他の民族には見ることはできない、神様からの素晴らしい祝福がたくさんありました。まず、選ばれた選民という祝福があり、他の国には許されなかつた神のみことば、律法が与えられまして、また、神様がその奇跡の力を持って彼らをガイドして導かれた、その歴史があります。神様は、イスラエルのために王を立てて、祭司を立てて、預言者を立てて、イスラエルを引っ張って導かれました。なんと素晴らしい祝福なのでしょうか。しかし、聖書が言いたいのは、そのような神様からの素晴らしい祝福でさえ、人の根本、創世記3章のその靈的問題、本当の問題が何か分かれば何の役にも立たなかつたという証拠なのです。聖書は。一体何があれば、どう変われば、人の本当の問題に近づくことができるのでしょうか。宇宙にそういうものはありません。人の本当の問題、聖書だけが教える、靈が死んでしまった人の根本を知るということは、もちろん恵みです。しかし、みことばに教えられているものなのです。みことばを聞かして、それを聞くときに、聖

靈の働きによってそれが分かるようになります。それが本当に分かったとすれば、人間との世にあるもののすべての限界を認めざるを得ません。そこがスタートなのです。

それから、それに気づいた時に、2番目です。

2. キリストの絶対価値を告白する。

キリストの絶対価値に気づいて、それを告白するようになります。人間の何か、世の中にある何か、いかなるものとも比べることができない、キリストの価値ではなくて、絶対価値なのです。ここから私たちに勝利ある答えに溢れる信仰生活がスタートできるようになります。キリストの絶対価値。言葉をたくさん聞いて、口でキリストの価値、価値と喋るからではなくて、人の本当の問題、人の根本、悪魔に捕らえられて、なすこと、やること、考えることすべてが悪につながるしかない、そういうどうにもならない人の根本、罪、それが罪です。嘘をついた…こういうのが罪ではなくて、生まれながら本能的に神の反対の方に行くしかない、そういうシステムなのです。考え方そのものが。皆さん、生まれてきてずっと経験してきたのではないでしょうか。残念なのは、教会に通いながらもそのように経験しているのではないでしょうか。問題は、それがあるかどうかではなくて、気づくか気づかないです。気づく、気づかないかです。キリストの絶対価値に目覚めて、告白するようになります。そのときに私たちは人間の何かとこの世にある何かから解放されて自由になります。自由というのは、自分勝手にわがままにできるということではありません。何者にも影響を受けることがなく、何者にも左右されることなく、振り回されることのない、そういう状態を自由と言います。それはキリストの絶対価値に目覚めたときに初めて可能になるのです。

1) 創世記 3:15

だから、神様は最初から約束されました。人間とこの世にあるものでは絶対不可能であり、限界があるということをだれよりもご存じの神様が最初から、女の子孫が生まれて、蛇の頭を踏み碎くと。だから、悪魔サタンの頭を踏み碎くことのほかには希望がありません。その他に答えはありません。悪魔の頭を踏み碎くことしかありません。しかし、世の中にはそれができるのは一つもありません。キリストだけが悪魔の頭を踏み碎くことができました。

2) 出エジプト 3:18

そして、私たちに必要なのは、罪とのろいの運命を碎いて、そこから解放されることが求められるわけです。それが本当の問題の解決であり、そこにのみ幸せがあります。しかし、世の中にはそれが可能になるものは一つもありません。キリストだけが、罪とのろいの運命から私たちを解放させる唯一の方なのです。私たちの困っていることをどうにかするためにキリストが世に来られたわけではありません。よくよく考えてください。キリストの絶対価値。世の中にあるどんなものでも、悪魔の頭を踏み碎くことができるものは存在しません。罪と

のろいの運命、地獄の運命から解放させる力は宇宙に存在しません。

3) イザヤ 7:14

それから、処女が身ごもって子どもを産むよ。その名をインマヌエルと言ひなさい。神があなたがたとともにいる、つまり神様と出会っていのちが得られること、死んでいた靈が生かされること、その他に希望などありません。それができるかはキリストだけなのです。人の本当の問題、靈的根本が何か分かっていれば、キリストの絶対価値に目覚めるようになるでしょう。今日おっしゃいましたイエス様がそのキリストなのです。

4) マタイ 16:16-使徒 4:12

ペテロは告白しました。主は、イエス様は生ける神の御子キリストですよと。キリストを告白するということは、キリストが人間とこの世の何かによって絶対不可能な死んでいた靈を生かしていのちを与えられ、悪魔の頭を踏み碎いて勝利なさるその方ですよと、絶対価値ですよと告発することです。しかしひてロは、主は生ける神の御子キリストですよと告白していたときには、正しいのですがまだ曖昧だったのです。しかし、復活なさったイエス・キリストと出会って、ペテロに変化が現れます。それからペテロは使徒 4:12、いのちなどが奪われることを恐れないで、世界中でイエスの御名のほかに私たち人間が救われる名として、どのような名も与えられていないキリストの絶対価値に目覚めたので、自分のいのちも惜しまないで、自分の生命より価値あるということに気づいたのです。それがキリストの絶対価値です。

今日の聖書を見ますと、イエス様が、私たちがなかなか理解できない、嫌がるような表現をしていらっしゃいます。私についてくるものは、自分の親、兄弟、親戚全部を捨ててついてこないといけない。また、自分の命も捨てて、最後には自分の全財産を捨ててついてこないと弟子になることはできません。それは、今から家出をして財産を全部売っぽらって、という意味なのでしょうか。それより大きな意味です。それもなかなかできないでしようけれども、今申し上げましたように、あなたがたがいま従っているイエスが絶対価値キリストであるということに気づいたのか。ならば、ちゃんと計算しなさいということです。あなたの親より恋人より財産、健康、あなたの命より大事で価値ある方ということを告白できるか。それが信仰です。告白できるか。そうでないと、目に見えない悪魔が信じると言っているクリスチヤンにも、いくらでも攻撃して搖さぶるわけです。家族を通して、経済を通して、健康を通して、人間関係を通して、自分の社会的な地位と立場、あるいは知識等々、なんでも触れるのです。それでキリストに従えないように、キリストより優先させるように。だから、これから世界福化をしないといけない弟子たちなので、この部分を明確にして、ただ従うだけではなくて、ターニングポイントをしっかりと迎えるようにイエス・キリストがおっしゃったわけです。家を建てるときにはしっかり予算を考えて、どれぐらいのお金がかかるのか

と考えるでしょう。戦争に出たときに勝てるかどうか、まず計算しないといけないのではないでしょうか。イエス・キリストを信じる。これから命が奪われるかもしれません。財産も社会的な地位も家族も全部奪われるかもしれません。迫害の時代には実際そうでした。今でも、本当の信仰に立っていると、周りから迫害されます。阻害されます。また、失うものもたくさんあります。それでも私は構いませんとちゃんと計算しなさい。信仰は、普通の計算はいりません。邪魔になるものです。しかし、靈的な計算です。キリストの絶対価値を元にして、ベースにして計算しなさい。あなたのすべてを捨ててまで従っていく価値があるものなのか。クリスチヤンの信仰生活というものはそのように問われる場面なのです。

5) ピリピ 3:5-8 パウロが言いました。そういう意味で、ピリピ 3 : 5-8 を見ますと、パウロが今まで誇りに思って大事にしていたもの、それは別に悪いわけではありません。自分の経歴、学歴、バックグラウンド、自分の性格と、良いものはいっぱいありました。生きるために必要なものです。しかし、キリストの絶対価値に目覚めることを邪魔していたということに気づいたのです。キリストの絶対価値に目覚めたあとは、そのすべてをちりあくたと宣言したわけです。つまり、私はそういったものにこだわり、振り回されるような人生はもう終わったのだ。それは全部意味が変わります。捨てるというのは、実際、捨てるようになる場面もあるでしょうけれども、意味合いが全部変わるのです。

それでパウロは刑務所の中にいて、迫害を受け、いつ刑務所から出ができるかは全く分からぬ状況の中でも、キリストにあって私を強くしてくださる、私は何事でもできるよと。満足しますよと。そういうものは、私の人生の問題の解決、本当の幸せとは無縁なもので、私の人生の問題の解決のキリスト、私の人生の幸せのキリストなので、キリストとともにいらっしゃれば、刑務所の中でも、家族が離れても、病気になっても、私の幸せは関係ありません。キリストですべてなのです。キリストで完全なのです。キリストで絶対なのです。いつそれが可能になるのでしょうか。人の本当の問題、聖書が教える人の根本を聞いて、それに心からアーメンするときからです。皆さんの信仰がなぜ曖昧なのでしょうか。ここで教える人が下手だからでしょうか。そういう面もあるかもしれません、本当に自分の問題、人の問題を聖書が教えているとおりに認めているのでしょうか。ならば、なぜ間違いに対してそんなにデリケートなのでしょうか。なぜ人の問題がそんなに大きく見えるのでしょうか。裏にある本当の問題が見えたなら、キリストが見えるはずなのです。それが靈の目が開かれるということです。ぜひ靈の目が開かれるように、人の靈的問題が見えてくるように。問題ではなくてキリストが見える、そういう目が開かれるように。それは肉眼で何かを見るかのような、そういう現象ではありません。しかし、見えるのです。

6) 塩気をなくした塩(34-35)

イエス様が最後におっしゃいました。塩は良いものです。しかし、塩は塩氣があるから塩な

のです。塩なのに塩気が抜けてしまったら何の役にも立ちません。それは、イスラエルに向かって、ある意味、現代のクリスチヤンに向かっておっしゃることなのです。先ほども申し上げましたように、イスラエルは選民という自負をもって、律法を徹底的に守ろうとしていました。そして、礼拝を命より大事にして、礼拝を守り、貧しい人、困っている人を助ける施しにも全力でかかっていました。にもかかわらず、キリストだけが抜けています。キリストだけが。現代のクリスチヤンは、キリストだけが抜けているというよりは、キリスト、キリスト、イエス・キリストという言葉はあるけれども、キリストが本当にキリストとして、絶対価値としてその人の信仰にないので、クリスチヤンという塩はあるけれども、キリスト教という塩はあるけれども、塩気がないのです。それは外に投げ捨てられて踏みつけられるだけなんだよという警告なのです。なぜそうなるのでしょうか。2部礼拝でもそういう話が少しありますが、キリスト教会がスタートして時間が経てば経つほど、さまざまな時代的な状況に合わせて塩気をなくしてしまいます。それが悪魔の巧妙な働きなのです。その時代の論理に合わせて等々、いろいろな動きによって悪魔はクリスチヤン一人から、教会から、塩気をなくせば成功なのです。大きな成長を与えて、塩気を抜いてしまうのです。神秘的な体験を与えて、塩気を抜いてしまうのです。これが今の時代です。私たちはまだ未熟なもので、小さな教会です。しかし、この塩気が何かを回復したという自負を持ってミッションを考えないといけないのです。それが皆さんからスタートなのです。私たちから。本当にひとりひとりの内側に塩気を回復すれば、今まで過去どんなにつらい、ひどいことがあったとしても、全部それが祝福に変わるでしょう。

結論を申し上げましょう。キリストの絶対価値に目覚めて、そのキリストの絶対価値をベースにして計算をしましょう。それでキリストより大事にしているもの、キリスト以外に頼るものなどを全部捨てましょう。言葉を変えますと、どんなものにも影響を受けない、振り回されない、左右されない、そういう整理をしましょう。家族を大事にすることと、家族に振り回されることとは違うのです。経済を大事にすることと、仕事を大事にすることと、その仕事や経済に左右されることとは違います。自由にならないといけません。なぜでしょうか。キリストだけが絶対価値なので。他は絶対という言葉は全部取られちゃうのです。絶対でない限り、それに左右される理由などありません。命もこの生命も絶対ではありません。絶対は1つだけです。キリストだけ。それでキリストの絶対価値に目覚めて、ならばキリストを中心に人生を編集しないといけません。キリストが絶対価値に間違いなければ、自分の過去を振り返って、過去の良いこと、悪いこと、失敗、成功、すべてがこの絶対価値キリストと出会うために許されていた必要なものだったのです。何一つ引っかかる、あるいは心の傷として残るようなものは存在しません。なのになぜそうなるかというと、キリストの絶対価値に目覚めてないからです。親に捨てられたのでしょうか。それでキリストと出会ったのではないでしょうか。親の愛情をたっぷり頂いて、キリストと無縁な人生を送ったと考えてみてください。鳥肌が立つのではないでしょうか。恐ろしくて恐ろしくて。でもそうならないの

は、キリストの絶対価値にまだ気づいていないからです。自分がどれほど絶望的な不可能な存在なのか認めていないからです。自分が本当に地獄だったということを認めるのであれば、キリストの他に希望はない、それが絶対価値になったときに、今までのああだこうだが全部その下に揃って編集されるのです。なるほど、この絶対のためにあったものなんだね。交通事故にあって障害者になったのでしょうか。良かったのではないのでしょうか。母親が早く死んだ、あるいはいじめられたのでしょうか。良かったのではないのでしょうか。このキリストを中心に今現在を編集しないといけません。すべて完了したと宣言しているのに、さまざまな問題があるのではないかでしょうか。その問題はキリストが絶対価値であれば、本当にすべてを脱ぎ捨て、キリスト Only、キリスト絶対という信仰に立たせるためのプロセスなのです。なぜでしょうか。キリストが絶対だから。それを中心に解釈しないといけません。だれかが悪い、良いではありません。

そして、ならば今皆さんが置かれている現場、学校、職場、家庭、地域、そこが環境が良いか悪いか関係ありません。それはキリストを伝えるために許された宣教地なのです。なぜでしょうか。キリストが絶対だから。今現在を編集しないといけません。皆さんに許されているタラント、技能、さまざまなスキル等々があると思います。それはキリストが絶対であれば、そのキリストが伝えられるための聖なる道具なのです。ただ耳に聞こえやすい良い表現をしてるわけではなくて、事実そうならないといけません。お金も含めて。それがキリストの絶対価値に目覚めたことであって、それを適用しないといけません。そして、今皆さんに許されている人間関係、それはどういう関係なのでしょうか。いろいろあるでしようけれども、キリストが絶対価値に間違いなければ、いまの人間関係、関わっているすべての人は全部が伝道の対象者なのです。そのように編集しないといけません。このように編集されることが祈りになるのです。

これからいつになるかわかりませんが、予防宣教局長が本格的に日本の地に入って、現場に入つてキャンプしようとしています。私たちの教会がまず第一に選ばれたのですが、いま皆さんのが関わっている人々を伝道の対象者として祈つて、どういう人なのかを考えながら、また皆さんのがいらっしゃるところで伝道すべきところ、伝道が必要なところがどこなのか考えながら祈つて準備しましょう。それだけでも。その前にキリストを中心にして皆さんのが今現在を編集しないといけません。知らないと、ダメな人は自分がダメでダメだと。うまくいった人は、自分が一生懸命して、うまく優秀だからそうなつたと勘違いばかりするから、バベル塔が崩れるかのようにいつか崩れてしまうのです。神様が理由があつて許されたものではないでしょうか。ダメなことできえ。

それから、キリストを中心にして未来を編集しましょう。未来は、教会に、そして現場に、237、5000 種族に、今申し上げましたこのような祝福の道しるべを残すために許されている時間なのです。そのことを編集しながら、これからはマタイ 6:33、何を食べるか、飲むか、

何を着るかなどを求めないで、神の国と義を求めなさい。そうすれば、それらのすべてが加えて与えられるという契約、使徒1:8、聖霊が臨まれると力を得て、エルサレムから地の果てにまでわたしの証人となるよという契約を握って祈っていきましょう。その契約がなぜ私たちに握られて祈りにならないのかというと、編集されていないのです。人生が福音によつて編集されていないのです。だから、未だにクリスチャンなのに、状態は未信者と同じ状態なのです。何を食べるか、飲むかがテーマで、精神的にも不安で、さまざまな問題に引っかかってつまずいたり。だからそれをターニングポイントを迎えて、キリストの絶対価値に目覚めるように。なぜイエス様は私に、ついてくるためには全部捨てなさいとおっしゃったのでしょうか。ちゃんと天秤にかけなさいよ。キリストと分かっているのか。あなたにお金や家族ではなくて、キリストが絶対必要だという理由、その根本を知っているのかと問いかけていらっしゃるのです。難しい論理ではなくて、ぜひ絶対、キリストの告白によって信仰生活のターニングポイントを迎えて走っていきたいと、そう願います。

(祈り)

恵み深い父なる神様。ありがとうございます。イエスはキリストという信仰告白をどうか改めるように聖霊様がみことばをもって、ひとりひとりに働いてください。ひとりひとりの内側の暗闇が碎かれて、御座の祝福が臨まれ、神の国がしっかりと建って、神の国のことがなされることを見る時刻表を迎えるように、信仰生活のターニングポイントにすることができるよう、ひとりひとりを祝福してください。イエス・キリストの御名によってお祈りいたします。アーメン。